

2026年度 町田市健康危機管理委員会 会議録要約

日 時：2026年8月4日（火曜日） 19時25分から20時50分まで

場 所：市庁舎3階 3－1会議室

出席者一覧：

所属	氏名	出欠
社会医療法人社団 正志会 南町田病院	矢野 正雄	欠
一般社団法人町田市医師会	村野 浩太郎	出
公益社団法人東京都町田市歯科医師会	長崎 敏宏	出
一般社団法人 町田市薬剤師会	佐藤 康行	出
東京都獣医師会 町田支部	芳賀 寛典	出
警視庁町田警察署	関口 裕之	出
警視庁南大沢警察署	戸ヶ崎 裕紀	出
東京消防庁町田消防署	山下 太輔	出
町田市民病院	中野 素子	出

※出：出席 欠：欠席

※敬称略

・要旨

発言者	内 容
事務局 保健所長 委員長	1. 開会 (1) 交代委員のご紹介 (2名) (2) 保健所長挨拶 (3) 委員長挨拶 (4) 副委員長選出
事務局	2. 報告 (1) 町田市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について (資料2に基づき説明) (委員からご意見、ご質問なし)
事務局 委員長 事務局 委員長 A 委員	3. 議事 (1) 2026年度 町田市感染症予防計画に基づく訓練の実施について (資料3に基づき説明) 感染症対策地域連携会議合同訓練について、歯科医師会や薬剤師会が希望した場合は参加できるのか。 現状、主催者は病院の職員を対象と考えていると思う。歯科医師会及び薬剤師会から参加の希望がある場合は、調整する。 市民病院において感染症の発生や流行に備え、現在取り組まれている具体的な事例はあるか。 他医療機関との合同訓練、防護服の着脱訓練、感染症発生時を想定した具体的な動線確認等を行っている。 また、火災・地震を想定した法定訓練、DMAT (災害派遣医療チーム) の派遣、南多摩医療圏内での通信訓練、周産期センターや透析のネットワーク訓練等も行っている。

	4. その他 (1) 2025年度 町田市総合防災訓練における医療救護活動訓練の実施について（資料4に基づき説明）
事務局	
A 委員	医療救護所で薬を処方する際に、患者の本人確認はどのように行うのか。処方箋は手書きか。また、処方日数は3日分程度か。
事務局	本人確認は、氏名と生年月日の2項目で確認する予定である。処方箋は手書きで、各緊急医療救護所にあらかじめ用意し、保管している。また、日数については、備蓄医薬品に限りがあるため、1日分の処方を想定している。
A 委員	備蓄薬の種類は多くないと思うが、使うとすれば痛み止めか。
B 委員	湿布、痛み止め、胃薬、小児用解熱鎮痛剤等を備蓄しており、慢性疾患用の薬剤は備蓄していない。
	(2) その他
委員長	健康危機管理に関する最新の情報や対策について情報交換を行う。熱中症の昨年度の搬送状況や今年度の発生傾向、また現場から見た注意点等についてご報告いただきたい。
C 委員	東京消防庁管内において、搬送件数は、年々増加傾向にあり、65歳以上搬送者が半数を占めている。また、発生場所は屋内が非常に多い。 呼びかけとして、エアコンの使用や水分補給、救急車の適正利用を発信している。また、出勤率が高まった際は、救急車逼迫アラートを東京消防庁アプリやX等で配信している。
委員長	歯科医療の現場においてナフサの供給停滞に伴う衛生材料の供給状況や影響はどうか。
D 委員	現時点では、診療に影響が出るような深刻な状況はないが、今後の供給不安定の状況が継続した場合は、影響する可能性がある。

委員長	薬品の流通の現状や現場での対応、また町田市お薬ネットワークの取り組みについてご報告いただきたい
B 委員	コロナ禍以降、薬品の供給不足が常態化している。その背景として、利益率の低い薬剤の生産抑制や物価高騰によるコスト増加がある。 今年度から開始した「お薬ネットワーク」は、在庫情報の共有を行うことで薬局間での協力関係が構築できる一方で、医師には流通状況を考慮した処方への理解と協力を求める必要があると考えている。
委員長	大麻をはじめとする違法薬物の状況や、市民が警戒すべき行動等はあるか。
E 委員	市内の違法薬物での検挙は増加傾向にあり、薬物種別では大麻が多い。特に 30 歳未満の若年層を中心に大麻の乱用が急速に拡大している。その背景として、低価格であることに加え、SNS 等での「海外では合法」、「ダイエットに効く」といった誤情報の拡散が要因となっている。 薬物乱用の防止対策として、警視庁全体で若年層に対する講話を実施している。 警戒・防犯対策としては、奇声や独り言を発しながら徘徊する等、不審な行動をしている者を見かけた際には、直ちにその場から離れ、安全な距離を確保した後に 110 番をお願いしたい。
委員長	講話はどこで実施されているか。
E 委員	学校・大学体育館等で行われている。
A 委員	薬物検査は尿検査なのか。
E 委員	尿や血液で検査をおこなっているが、基本的には、尿検査を行うことが多い。
委員長	市販薬を過剰摂取するオーバードーズが社会問題となっている。管内で若者を取り巻く環境について伺いたい。

F 委員	オーバードーズは、違法薬物に比べて、中学生から大人まで安易に手を出しやすい傾向にある。 特に若年層においては、SNS の影響が大きく、一度手を出すと過剰摂取を繰り返す依存状態に陥り、深刻な体調不良を招くことが認められている。 市内では、春の新生活への不安や男女関係の悩みから、オーバードーズに至る方が多い。 対策として、警視庁少年育成課にヤング・テレホン・コーナーを設け、相談対応を行っている。また、各学校を訪問して講話を行うほか、繁華街での補導活動を強化し、乱用防止と安全確保に努めている。
委員長	薬剤師会から補足はあるか。
B 委員	薬剤師会でも、学校薬剤師が薬物やオーバードーズの啓発を行っている。薬の正しい理解や、ルールを逸脱すれば違法となるリスクを周知している。
委員長	昨年の委員会でマダニを媒介するウイルス性の感染症、重症熱性血小板減少性症候群（SFTS）の猫から人へ感染し死亡する事例が報告された。その後の状況について伺いたい。
G 委員	SFTS は年々増加しており、猫は人より多く発症している。以前は西日本が中心だったが、去年から関東圏でも発生している。致死率が高いことが問題で、人は治療薬があるが、犬・猫は無い。 また、人畜共通感染症のレプトスピラ感染症が一昨年から少し増加している。
事務局	保健所では、飼い主のいない猫の対策として、不妊・去勢手術を獣医師にお願いしているが、SFTS の影響で、手術を断られるケースが増えている状況。今後、対策が必要と考える。 (5) 閉会